

## 「IT時代におけるくらしと社会に関する調査」 ご協力のお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私ども株式会社日本リサーチセンターは、世論調査・市場調査を行っている総合調査機関です。

この度、お茶の水女子大学文教育学部杉野勇准教授を代表とする「社会調査法研究会」の依頼により、首都圏で「IT時代におけるくらしと社会に関する調査」を実施することとなりました。お忙しいところ誠に申し訳ありませんが、是非ともご協力いただきたく心よりお願い申し上げます。

敬具

### 〔調査の目的と概要〕

この調査は、現代日本の生活者の社会的属性(たとえば性別や年齢, 社会階層など)と、選挙や政治をはじめとする多様な社会意識や行動との関連を解明することを一つの目的としています。同時に、今後の社会調査の有力な実施方法になるであろうコンピューター支援型社会調査の信頼性の検討をもう一つの目的としています。欧米では一般的になっていますが日本ではまだ普及しておらず、情報コミュニケーション技術の浸透とともに重要な検討課題となっています。結果の概要は、2015年3月頃杉野勇研究室ウェブサイトで速報を公開し、その後早ければ2015年7月以降に学術誌や学会大会にて研究成果を発表する計画です。

### 〔協力をお願いする方々〕

この調査は、東京都・千葉県・埼玉県・神奈川県のお住いの30歳～59歳(2014年9月1日時点)の男性と女性の方1,080名にご協力をお願いします。お願いする方は、科学的な社会調査の標準的な方法である「層化二段無作為抽出法」で選ばせていただきました。まずは1都3県から20地点を「くじ引き」に似た方法で全く偶然に(無作為に、ランダムに)選び、その各地点で選挙人名簿から個人を全く無作為に選びました。選挙人名簿は、「統計調査、世論調査、学術研究その他の調査研究で公益性が高いと認められるものうち政治・選挙に関するものを実施するために閲覧する」ことが公職選挙法にて認められています。私ども(株)日本リサーチセンターは、定められた手続きを経て選挙管理委員会の許可を受け、閲覧させていただきました。

### 〔調査の方法〕

調査の対象として選ばれた方にまず葉書で調査の主旨説明と協力のお願いをします。その後、登録調査員がお宅を伺って改めてご依頼をしますので、宜しければそのまま質問にお答えください。お伺いする時期はそれぞれの方によって異なりますが、早くて10月中旬から、遅ければ12月下旬ごろです。

今回の調査では、紙の調査票で調査員が質問する方式、調査員がタブレットを持って質問する方式、回答者御自身がタブレットにタッチして質問に回答する方式があり、それぞれの方にとどの方式でお願いするかは、申し訳ありませんがこちらで予め決めさせていただきます。

### 〔謝礼〕

きわめて些少で恐縮ですけれども、御協力いただいた方には、全国のコンビニエンスストアやファミリーレストランなどさまざまなお店で使えるQuoカード(500円相当)を進呈させていただきます。

## 【調査実施】

株式会社 日本リサーチセンター  
ギャラップ・インターナショナル・アソシエーション・メンバー  
調査部 担当 西村・榎本・宮内

フリーダイヤル 0120-921-409  
(平日 10 時～17 時・土日祝祭日を除く)  
〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-7-1  
ホームページ <http://www.nrc.co.jp>



(株)日本リサーチセンターは、1960年に創設された、歴史のあるマーケティング・リサーチ会社のひとつです。個人情報保護法、および一般社団法人日本マーケティング・リサーチ協会の「マーケティング・リサーチ綱領」を遵守して、世論調査・市場調査を行っております。

## 【調査企画】

社会調査法研究会  
研究代表：お茶の水女子大学 文教育学部 人間社会科学科 准教授 杉野 勇  
〒112-8610 東京都文京区大塚 2-1-1  
ウェブサイト <http://www.li.ocha.ac.jp/hss/socio/sugino/>



お茶の水女子大学

## 調査に関するQ & A

### 1. 調査を行っているのは誰ですか

お茶の水女子大学文教育学部人間社会科学科応用社会学講座の杉野勇准教授が研究代表となり、文部科学省と日本学術振興会の科学研究費による公的助成(H25年度～H27年度科学研究費助成事業・基盤研究(B)、課題番号25285147)を受け、「ICT支援による社会調査の信頼性と応用性の向上を目指した方法論的研究」というテーマで「社会調査法研究会」を組織して調査を実施しています。社会調査法研究会のメンバー(研究分担者)は、轟亮(金沢大学教授), 平沢和司(北海道大学教授), 俵希實(北陸学院大学教授), 小林大祐(仁愛大学准教授), 荒牧草平(九州大学准教授)です。

調査の実施については、株式会社日本リサーチセンターに委託しています。日本リサーチセンターは1960年に創設されたマーケティング・リサーチ会社で、一般財団法人日本情報経済社会推進協会から「プライバシーマーク」を付与されています。調査の実施計画に関しては、お茶の水女子大学人文社会科学部の倫理審査委員会によって、「研究における倫理的配慮」を十分に満たしていると承認されました(通知番号 第2014-75号)。

### 2. なぜこのような調査が必要なのですか。なぜこんなことを聞くのですか

本調査の目的は、大きく2つあります。まずひとつ目は、現在の日本社会における、投票行動や政治についての意見、社会に対する考え方について、性別や年齢、社会階層などの社会的属性との関連の仕方を捉えることです。昨今の政治状況や社会状況を読み解き、今後を展望するために、本調査のデータは大変重要なものとなります。

もうひとつの目的は、コンピューター機器の社会調査への応用可能性を探ることです。近年、個人情報に対する意識の高まりや多様化するライフスタイルによって、従来型の社会調査が難しくなっており、より回答者の負担が少なく、協力してもらいやすい調査方法の開発が急務となっています。そんななかで近年注目を浴び

ているのが、コンピューターやインターネットを活用するデータ収集法なのです。ただ、このような方法を用いることで、逆に回答者の方を困惑させたり、拒絶感を抱かせたりしてしまう可能性もありますので、このように実際に確かめることが重要だと考えています。

### 3. 個人のプライバシーはどのように守られるのですか

個人の回答内容は全て匿名化・数値化されて、対象者名簿と回答内容は別々に保管されます。対象者名簿は調査実施委託先の日本リサーチセンターが厳重に保管し、調査終了後、裁断処分いたします。日本リサーチセンターからは、個人名の入った対象者リストは研究者側には提供されません。

日本リサーチセンターは「一般社団法人 日本マーケティング・リサーチ協会」の正会員であり、プライバシーマーク適格性審査を受けてプライバシーマークを付与されています。また製品認証の国際規格「ISO20252:2006」(マーケットリサーチサービス及びマーケットリサーチデータ収集サービス)も取得しており、個人情報はそのらの規定の下で厳重に管理されます。

### 4. 集めたデータはどのような目的に使われるのですか

先にお示した調査目的の検証のために、集計されたデータに対して統計的な分析を行います。その結果は、学術論文や学会発表などの学術的な成果として発表させていただきます。みなさんのデータを個人別に分析することはいたしませんので、データ分析によって個人の特定につながるようなことはありません。

また、特に本研究のように補助金・助成金を受けて実施されている調査研究においては、研究成果である調査データは多くの人に役立てるべき「公共財」であるとの考え方が欧米でも日本でも一般的で、調査を実施した者だけが独占するのではなく、適切な「データの図書館」のような組織(データ・アーカイブ)によって管理・提供されることが望まれるようになってきています。本調査研究でも、データファイルに一切の個人情報が含まれず個人が特定されないことを確認した上で、東京大学社会科学研究所の社会調査・データアーカイブ研究センターなどの組織にデータを委託する予定です。こうしたデータの公開は、調査実施者以外の研究者によって、不適切な調査研究や分析が行われていないかがチェックされる仕組みにもなり、データを最大限有効に活用しつつ研究上の不正を監視する為に有意義なものとなっています。

### 5. どうしても答えなくてはいけないのですか

社会調査への協力は強制されるものではありません。ですから、どうしても回答したくない場合は回答されなくても結構です。あくまで調査への協力や質問への回答は自由意思による、任意のものであることが大原則です。ただ、回答される方が少ない調査は、せっかく調査をおこなってもその科学的な信頼性が損なわれてしまいます。ご面倒であることは重々承知しておりますが、なにとぞ御協力下さいますようよろしくお願いいたします。

## 6. 不在にしていることが多いのですがどうしたらよいですか

調査を委託している日本リサーチセンターのフリーダイヤル(0120-921-409)に、「IT時代におけるくらしと社会に関する調査」の協力依頼を受けている旨と御都合の宜しい日時を御連絡いただければ、できるかぎり御要望に合わせさせていただきますので、ぜひご連絡ください。

## 7. 家族や知り合いが代理で回答してはいけませんか

「層化二段無作為抽出」によって完全に無作為に選ぶということは、実際に誰が選ばれるかは全く偶然によるということの意味です。誰が選ばれるかは事前には全く分からないのですが、これは(選ばれた人ではなくても)誰が回答してもいいということでは決してありません。厳密に科学的・統計学的な推論を行う為には、選ばれた人自身に回答していただくことがどうしても必要です。「事前には誰になるか分からないが、一旦選ばれた後ではその人でなければならない」というのが大原則なのです。科学的に信頼に足る調査を実施する為に、恐れ入りますが、ハガキをお送りした宛名の方ご本人様にご協力いただきますようお願い申し上げます。他の方が回答された場合は、残念ながら回答が無効になってしまいます。

## 8. 調査に協力してどんな意義があるのですか

きわめて些少で恐縮ですが、御協力いただいた方には、全国のコンビニエンスストアやファミリーレストランなどさまざまなお店で使える Quo カード(500円相当)を進呈させていただきます。

また、本調査のような社会調査は、学術研究のみならず、行政や経済分野、また市民の社会参加活動においても、データ収集の重要な方法となっていますが、現在さまざまな課題をかかえる状況にあります。本研究は、今後有効な方法の性質を解明し、情報コミュニケーション技術がいつそう普及し、高度化していくこれからの日本社会に適合した社会調査のあり方を提案することを目標としています。

## 9. 結果はいつどこで分かりますか

お茶の水女子大学文教育学部杉野勇研究室ウェブサイトで早ければ2015年3月から速報を公開する予定です。その後データ分析を進めて、2015年7月以降に国内・国外の学会や雑誌にて研究成果を発表していく計画です。